



像します。しかしながら、次に違うヒモを引つ張ると、今出ているヒモがまた引つ込みます。

つまり、どこを引つ張っても必ず今まで出ていたヒモが引つ込むのです。筒の真中のヒモを引つ張っても反対側のヒモが引つ張られず、端のヒモが引つ張られるという状態。また、その逆に端のヒモを引つ張ると真中のヒモが引つ張られるという不思議な筒です。

・からくり筒作り

まず、赤いヒモを針金の輪に通して、筒の真ん中の穴に通していきます。ヒモの両端にビーズを通してうえで抜けないように仮結びます。次に端の穴に違う色のヒモを通して通します。青いヒモを片穴に通し、その時に最初に通した赤いヒモを針金で出し、赤と青のヒモをクロスさせて、裏側の穴に通します。この時に竹くしを使ってヒモを通します。さらに黄色のヒモをもう片穴に通し、最初に通した赤いヒモを針金で出し、赤と黄のヒモをクロスさせたうえで、裏側の穴に通します。通した後のヒモに先ほど同様にビーズを通してうえで仮結びします。

・ヒモの調整、玉結び、完成

その後は、長さ調節のため、ヒモを引つ張って輪ゴムでヒモを止めます。仮結びをほどいて、筒の穴の根元で絶対ほどけない玉結びでしっかりと結びます。そして余分なひもを切ります。6箇所玉結びを終えた後、筒の両端のフタとなる円を2つ描いた紙が1枚ずつ（表用と裏用）を切つて、裏用の紙を筒に貼ります。その上から筒の側面と同じ千代紙を貼ります。これで完成です。

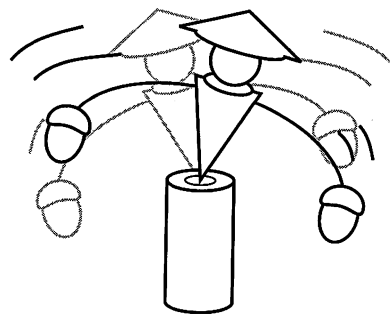
参加者はそれぞれ自分の作品の出来具合を筒のヒモを引つ張つて確認しました。

参加者の中には、2本作る予定の方もおられました。が、大半は筒に通したひものクロスが、うまく出来なかつたり、通したひも止めがしつかり結べなかつたり、悪戦苦闘。米村先生を呼んでは、ご指導していただきました。休憩の時間も熱心に筒作り作業に取り組み、仕上げる事が出来ました。ひもを勢いよく引くと結び目のビーズが筒に当たり、コツンと軽い音を立てます。その音を聴くと完成度の高さが示されたように思われ、喜びとなりました。

今日のため米村さんには、筒を作る材料や下準備をしていただきました。お蔭様で限られた時間内で不思議な「からくり筒」

を作り、時間を忘れて楽しんだ（サロン・あべの）2月の出会いでした。

（参加者13名 山村貴司）



## 美智子のこんな話

岸田美智子

## 「大友さんを偲ぶ会」に参加して

「昨年の10月に亡くなられた、C.I.L豊中の大友章三さんを偲ぶ会が2月17日に大友さんが住んでおられた服部で開かれ参加してきました。

私と大友さんは、堺の特別支援学校で確か小学部の同級生でした。

その頃は、まだ特別支援学校がほとんどなく、大友さんは大阪府堺市まで豊中からはるばる通学されていました。

小学部の頃の大友さんは、スマートで歩行器に乗り学校の中を、元気に動きまわっておられた思い出が残っています。

彼は大阪府下で初めての、障がい者が主体となった自立生活センターを設立され、

全国的にも有名な方でした。ピアカウンセラーとしても講師を色々な講座で務めていました。奥さんも電動車イスに乗っておられる明るい女性です。お二人で力を合わせて障がい者が地域で生きていく為に必要な事業を次々に立ち上げられていました。

この日の偲ぶ会では、彼の介助に関わっていた介助者の中で、腹話術を出来る人がおり、この日に披露してその場を盛り上げてくださったり、音楽が得意な方でライブもありました。そして、大友さんの人生を振り返る写真を使ったライフストーリーのスライド上映がありました。この様なプログラムで参加者皆で楽しいひと時を過ごした後、大友さんが最後の仕事として立ち上げられた、自立生活センター「WAO」に理事長として、最初で最後の出勤をされた時のビデオが上映されました。この時にもういつ亡くなられてもおかしくない状態で、人工呼吸器を付け看護師がボランティアで6人も同行し、担当医師が車で同行するという状態で1時間程出勤できたそうです。大友さんにとって地域に帰る最後の戦いだったとビデオを観た私達に感動を与えてくれました。この様に楽しくて残された私達

に感動を与えてくれた偲ぶ会は初めてでした。そして、障がい者運動と医療機関の連携が今後の私達の課題だと改めて実感でき、勇気付けられた偲ぶ会でした。  
大友さん！本当にお疲れ様でした。ゆっくり休んでくださいね。



# その後の人生

「それからのナントカ」という小説があるらしい。たとえば、佐々木小次郎と闘った宮本武蔵は、それからどんな人生を送ったのか、それが気になるのである。

小説ではなくても「あの人は、今」なんていうテレビ番組がよくある。一世を風靡したアイドル歌手が、どうみても品のないオバサンになっているのを見るとどうだろう。若いときに憧れても手の届かない存在だった人たちも、時間がたてば自分たちと同じようなレベルになっていると知って、安心するような、がっかりするような、あるいは意地の悪い喜びのようなものを感じるのかもしれない。

最近、インターネットのおかげで、どこでも誰でも気軽に情報を探せるようになった。私も自分の仕事のうえで出会った人のことをふと思ひ出し、いまごろ、あの人はどうしているの

だろうかと思ひ、ネットで名前を検索してみる。ことがある。ただ、たいていは名前も正確には覚えていなくて、土地の名前や活動の種類など、思いつくものをキーワードとして入れて、それで正確な名前も思ひ出すのである。

前置きが長くなったが、先日、ある当事者団体と連絡をとることになって、その団体のホームページを開いたら、いつも中心になっていた人がいない。どうしたのだろうと、その人の名前を検索してみたら、全く別のことをやっていることがわかった。

なんと霊能者のような仕事をしているのである。その広告まで出している。霊的な相談は一回一万円、霊的な訓練となると、もつと高い料金だった。

ご本人の誠実な人柄はよく知っているつもりなので、詐欺などではないと思う。本当にそういう一種の超能力が自分にあると信じて、このような仕事を始めたのだろう。ホームページには、そこで「癒やされた」「救われた」という人たちの多くの「証言」があった。

私が考えてしまったのは、彼が当事者運動を通して自分がやってきたことを、そのホームページのなかで否定してしまっていることだった。あれは無理をしていた、私の救いは、そこには

無かった、真の救いは霊の力が必要だったと、そう言っている。

当事者運動は、しばしば一般の人々や世間でいう「専門家」の考えを「偏見」として拒否し、自分たちの体験や主観に根ざした考え方を重視する。しかし、それが過度になると、自分自身が「そうだ」と思ひ込んだことを、そのまま信じてしまうことになりかねない。当事者運動に生活の全てを投げ打っていたような人が、またそれを否定し「霊の世界」に入ってしまったことは、それだけ聞くと意外なような気がするが、あの人の根のところでは繋がっていたのかもしれない。

当事者運動を通して主張されていた言葉は、勇敢で、すっきりと整理されたものだったが、彼の心の奥にはそれでは解決できないものがずっとあったのだろう。オカルトめいた言葉だけが怪しく光る彼のホームページを見てみると、私が何度も会っていた当時の彼の仲間だった人はきつとすでに遠ざかってしまっただろうと思ひ、私には「寂しすぎるその後」にしか見えな。しかし、それでも一生懸命に生きていこうという様子は、私が以前から知っているその人と、びつたりと重なりあうのである。(知)



## 晴れのち晴れ

稲垣 恵雄

### ■感謝

私たちは誰かにお世話になったり教えてもらったりすると、必ず「ありがとう」とか「すみません」と感謝の意を伝える。特に私のように重度障害者は朝目が覚めた時から夜、寝るまで他人の手を借りなければならぬので、この感謝の気持ちを決して忘れてはならないと思う。

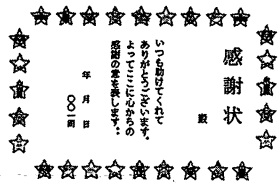
ある障害者が「朝から晩まで『ありがとう』ばかり言わなければならないのでイヤになってくるわ」とグチをこぼしていたが、この人の考え方は少しおかしいのではないかな。冒頭にも書いたようにお世話になったら「ありがとう」「すみません」とお礼を

言うのが礼儀だし、エチケットでもある。それに「ありがとう」と言えば、お世話になった当人も気持ちが良いし、落ち着くことができるのである。

ところで今、ヒットしている島津亜矢の「感謝状」という曲がある。これには「母へのメッセージ」とサブタイトルが付いているようにお母さんに感謝する気持ちを歌ったものである。その中にこんな歌詞がある。  
お母さん お母さん  
あのときも言えなかった  
あなたに贈る ありがとう

### あなたに贈る 感謝状

上記の歌詞のように私も同じような思いをしたことがある。今は亡き母にずいぶんお世話になりながらなかなか「ありがとう」と言えなかつただけに悔やまれてならない。でも今でも感謝している。本当に私も母に感謝状を送りたい。





あやかの

虹のおこうへ！

つつみ あやか

怒涛のごとく

臨死体験をした、二〇〇九年六月三〇日を境に、私の人生においての大きな変化が次々とありました。

女性の身体へ変えて行く性別適合手術も七月に開催された性同一性障害の治療に関するシンポジウムに出席した時に、名古屋の形成外科の先生の講演があり、それをきっかけに同じシンポジウムに出席していた主治医と繋がり、ほどなく紹介状を書いてもらって、八月初めに手術を受けました。

術後の経過も良好で八月下旬に家庭裁判所へ戸籍の性別と名前を変更する申し立てを行いました。

申し立てに必要な主治医とセカンドオピニオンの先生の二人の診断書ももらった二日前の日記にこんな事を書きました。

今、当たり前前になっている事

朝起きて、顔を洗って、朝食を食べて、歯を磨いて。

当たり前前のようにスカート履いて。

当たり前前のように化粧をして

当たり前前のように外へ出て。

当たり前前のように地下鉄の女性専用車両に乗って。

用事を済ませたり、お買い物をしたり、遊びに行ったり。

ファッション雑誌を見ては、ちよつと、おしやれを試してみようと思ったり。

淡い恋の夢を見てみたり。

今まで、決して許されるものではなかったと思っていた事ができる喜び、そんな喜びを噛みしめながら、本当に自分らしい人生を生きています。

今日、大病院の二人のお医者様から診断書もらいました。

私が「性同一性障がい」と言う名の「個性」を持つている女性である事の証明です。

明後日、家庭裁判所へ行つて。

そんな当たり前前になっている事を、国のお墨付きをもらうためにお願いをします。

裁判所から、私の願いが認められた時。

私は、「あやか」と言う名のひとりの女性と

して、この社会で生きていきます。

オセロゲームみたい

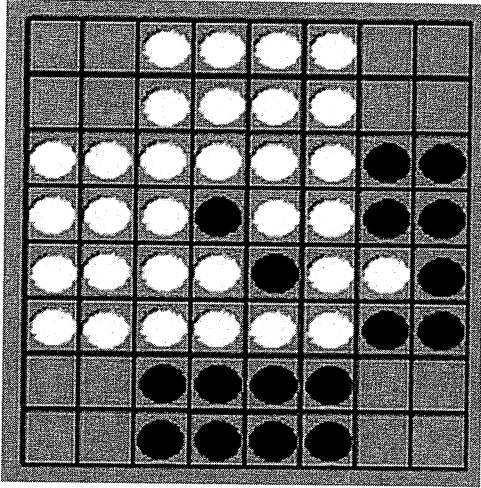
家庭裁判所へ申し立てを行った二週間後の九月一日、申し立てについて裁判所に出頭し、無事に戸籍の変更が認められました。

この翌日から、戸籍の変更や住民票の変更手続きに始まり、パスポートや健康保険証等の公的証明書類、自動車等の免許証、銀行の口座名義人やクレジットカードの名義人の名前の変更からレンタルビデオの会員の名義の変更に至るまで、様々な書類の名前と性別の変更手続きを行いました。その届けの件数は、本当に数え切れない位いっぱい……。

届出を出すのに一ヶ月近くは掛かったと思います。その翌月には、新しい名前と「女」と書かれた真新しい書類やカードがどんどんと手元に送られて来ました。

まるで、オセロゲームで黒い駒が白い駒にどんどんとひっくり返って行くみたいな感じでした。

これと並行して、声帯のキーを高くして女性的な声に変える手術やボイストレーニング、仕事に耐えうる程度の体力作り、そして何よりも、会社へ女性社員として職場復帰するための打ち



合わせも行いました。

そして二〇〇九年十二月十六日に元の職場に女性社員として復帰しました。

職場の全体朝礼で、二百人位はいる大きな部屋で私はマイクを持って職場の人々に挨拶をしました。挨拶を終えた後、大きくて暖かい拍手が湧き上がりました。

私にとって、新しく自分らしい人生の始まりでした。  
(つづく)

**サロン・あべの毎月の感謝**

○カンパ、切手、お茶菓子、等のご寄贈、ありがとうございます。

R・K、稲垣恵雄、大和田弓子、玉置明美、平岡太、町野旬子、宮脇信子、その他(敬称略)

**お知らせ**

**<サロン・あべの> 4月の出会い**

- 内 容：自然農について  
～現代農業ではない自然の営みに沿った農業～
- お客様：吉原和郎氏 (MFCフードコンサルタント、  
操体法指導者)
- 日 時：4月20日(土) 1時～4時
- 場 所：育徳コミュニティーセンター、研修室  
[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
2階、スロープ、車イストイレ有、  
TEL06-6621-1901]
- 参加費：なし
- 問合せ先：TEL・fax06-6691-1028

(富田慶子)



4月はどこのサロンの、  
どのテーマが  
お気に入りですか。  
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」4月の出会い

日時：4月21日(日)午後1時30分～4時  
内容：「『法界坊』(ほうかいぼう) ニューヨーク公演  
DVD鑑賞  
平成中村屋鑑賞会」中村勘三郎、中村橋之助、  
中村扇雀、笹野高史、他  
場所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3  
会費：なし  
問合せ先：淀川区社協TEL06-6394-2900

■「サロンにしよど」4月の出会いは、お休みです。

■「サロンにし」4月の出会い

日時：4月13日(土)午後2時～3時30分  
内容：ドキュメンタリー映画鑑賞、  
「東日本大震災と障がい者」  
「逃げ遅れた人々」  
場所：西区在宅サービスセンター「ながほり」  
[大阪市西区新町4-5-14。  
TEL06-6539-8075]  
会費：なし  
問合せ先：TEL090-3949-6973 (宮脇淳)

■サロン「アイ」4月の出会い

日時：4月13日(土)午後1時30分～4時  
内容：青年海外協力隊とエチオピアについて  
ゲスト：山田和矢氏  
参加費：なし  
場所：「おかちやま」生野区在宅サービスセンター2階  
[大阪市生野区勝山北3-13-20]  
問合せ先：生野区社協ボランティアビューロー  
TEL06-6712-3101

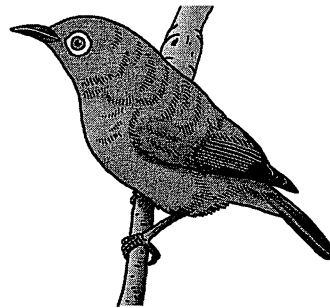
■「てくてくすみよし」4月の出会い

日時：4月13日(土)午前10時～  
内容：ECO&QBB  
場所：大和川河川敷き  
問合せと申込み先：山本篤江  
TEL06-6692-8411  
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」4月の出会い

日時：4月7日(日)13時30分～16時  
内容：「ワークショップ(参加型学習)で、  
新しい価値観を発見しよう!!!」  
ゲスト：宮脇 淳さま  
場所：鶴見区民センター3階  
[大阪市鶴見区横堤5-3-15]  
会費：なし  
問合せ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)  
TEL06-6913-7070

■「サロンいたみ」4月の出会いは、お休みです。



<サロン・あべの>Vol.321 発行：平成25年(2013年)3月16日 定価¥100  
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆  
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941  
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212  
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/ 「サロン・あべの」でも検索できます